

CITATION: Kelly AJ, Kavanagh J, Thomas J. *Cochrane Database of Systematic Reviews* Cochrane Pregnancy and Childbirth Group, Issue 7. Art. No.: CD003099. DOI: 10.1002/14651858.CD003099.pub2
CRG名: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 4 June 2013
Clib issue No.; N/U: 2013 Issue 7; Update

アブストラクト

背景: 強力な下剤であるヒマシ油は、トウゴマの実から得られる。古代エジプトに遡る複数の事例報告によると、分娩を誘発するためにヒマシ油が使用されていた。ヒマシ油は、助産実践で伝統的な分娩誘発法として広く用いられている。分娩誘発におけるその役割はほとんど解明されておらず、臨床試験でその有効性を検討したデータは少ない。本レビューは、標準化された方法による子宮頸管熟化および分娩誘発の方法に関する一連のレビューに含まれている。

目的: 妊娠第3三半期の子宮頸管熟化または分娩誘発におけるヒマシ油使用または浣腸の効果を、他の子宮頸管熟化または分娩誘発の方法と比較検討すること。

検索戦略: Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2013年4月30日)および関連論文の文献を検索した。

選択基準: 妊娠第3三半期の子宮頸管熟化または分娩誘発において、ヒマシ油、入浴、浣腸のいずれかを、プラセボ／無治療またはその他にあらかじめ分娩誘発法のリストで規定した方法と比較した臨床試験。

データ収集と分析: 分娩誘発に関する膨大で複雑な試験データに対処するために、データ抽出を2段階に分けるなどして対処した。

主な結果: 妊婦233例が参加した3試験を選択した。帝王切開の実施率というアウトカムが報告された2試験では、2介入間の差を示すエビデンスが得られなかった[リスク比(RR)2.04、95%信頼区間(CI)0.92~4.55]。新生児または妊産婦の死亡率あるいは罹病率に関するデータは示されなかった。

レビューアの結論: 今回レビューした3試験に組み込まれた妊婦は少ない。3試験ではいずれもヒマシ油を単回投与していた。これらの試験で得られた結果は、その方法論的質の低さに起因するバイアスリスクがあるため、慎重に解釈すべきである。子宮頸管プライミング(準備刺激)および分娩誘発剤としてのヒマシ油の有効性を定量するには、さらに研究を進める必要がある。

平易な要約(Plain language summary)

子宮頸管プライミング(準備刺激)と分娩誘発におけるヒマシ油、入浴および／または浣腸

分娩を人工的に誘発する必要性が生じることがあります。ヒマシ油は、実際の助産実践で伝統的な分娩誘発法として広く用いられています。服用か浣腸で使用されます。妊婦計233例を対象とした3試験をレビューしたところ、ヒマシ油が子宮頸管熟化または分娩誘発に及ぼす影響を明らかにし、それを他の分娩誘発法と比較するのに十分な研究が行われていないことが分かりました。本レビューでは、ヒマシ油を服用した全妊婦が吐き気を催したこ

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 27日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。